Vol. 22, No. 4

全科協ニュース

平成4年7月1日発行
（通巻第125号）
全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel.03-3822-0111（大代）
Fax.03-3824-3298

おもな内容：◇全科協北米科学系博物館視察研修報告3　㈱ココロ　横田　祐子
◇博物館ティーチャーズセンターの意義と事業について　国立科学博物館教育部長　大堀　哲
◇加盟館園紹介

〔全科協北米科学系博物館視察研修報告3〕

ミュージアム・ショップの実際

㈱ココロ企画デザイン部　横田　祐子

昨年度の全科協研修には、当社より私を含め2名のデザイナーが参加させていただきました。グラフィック・デザイナーという職業柄ミュージアム・ショップにおける商品とかかわり合う機会が多く、ミュージアム・ショップの形態や商品の視察というのも、私共の目的の一つでありました。

今回視察した博物館のミュージアム・ショップは、充実度にかなりの差があるものの、カウンター一つの売店程度のものではありませんでした。

種類の豊富さやアイテムの充実という事に力をいれ、広いスペースを割いている館はもちろんですが、スペースの小さい館でも、その館の色合いを濃く反映してオリジナリティーを出すなど、ミュージアム・ショップにかなり力を入れている事は確かなようです。

ショップ自体の内装などは全体的に質素なものですが、これは、派手なディスプレイで呼び寄せるまでも無く、訪れた人が立ち寄るためだと思われます。

取り扱っている商品は書籍・印刷物とグッズに大別できます。書籍関係というと、館紹介用のパンフレットや所蔵品・展示物の詳細を載せたカタログ、特別展示のカタログ等はほぼ置いてありました。又、館の研究の成果を表す意味も含め独自の研究書、メンバーズとの交流や宣伝・普及の役割もある定期発刊の館報などもあげられます。

一般書籍はその館の性格や対象者にあわせ狭く深く揃えているようです。やはり書籍は量が多い事がそのまま充実度につながっています。

グッズでは、おなじみのポスターや絵葉書は必ず用意してありました。館で製作しているオリジナルグッズというと、ボールペンやノートのような文具類、Tシャツやネクタイ等の服飾類、手提げ袋やカップ等の雑貨類は一般的です。これらはロゴやトレードマークを印刷したものから企画・デザインまであくまでオリジナルで作り上げた本格的なものまで様々です。

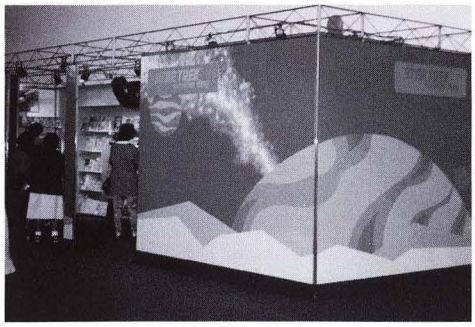
その他、ビデオテープ、スライド等、学校等での教育材料を対象としての商品も多くありました。

では、各訪問館のミュージアム・ショップをそれぞれ取り上げてみたいと思います。

『国立航空宇宙博物館』

天井の高さもあってか、かなりのスペースを感じました。この館の中心的展示物である飛行機や宇宙船が、所狭しと吊り下げられているのがまず、目に入ります。カラフルな凧なども交じり、明るい雰囲気で、子供達が飛び込んでいけるようです。書籍は航空・宇宙に関する物が中心で、絵本から写真集・専門書まで幅広く揃えてあるようです。グッズは豊富にあり、主な対象は子供から青年のあたりのようです。宇宙食や隕石などのなかなか手に入りにくい品は特に興味を集めているようです。

玩具関係の物も多く並べられていましたが、SF映画やTVに登場した宇宙船や小説なども数多く揃えられていることには驚きました。特に米国



航空博物館の人気ＳＦドラマ専門ショップ

内で人気のＳＦドラマは専門ショップまでがあり、非常にオープンな体制がうかがえました。おそらくこれは、子供達にとって身近なＴＶや映画が、宇宙へのアプローチとなって、より深い興味と関心のきっかけとして捕らえているのでしょう。博物館の課題である『興味を抱かせる』という方法の一つのやり方であると思います。

『国立アメリカ歴史博物館』

地下いっぱいに広がるショップは、今回の訪問館中最大規模のものでした。書籍のコーナーとグッズのコーナーに分かれており、ビデオやレコード、テープも豊富に取り揃えてありました。

本屋並の書籍の量はジャンルを探すにも苦労するほどでしたが、これは文化というものを取り扱う館の性質によるもので、広く深くということなのでしょう。

グッズもまた幅広いジャンルで揃えられており、雑貨類・玩具が豊富でした。民族製品や文化財の複製もこの館ならではといえます。

『国立自然史博物館』

恐竜や動物といった人気のある展示物関連の商品が中心で、１階にあるメインショップの他に、恐竜専門の「DINOSAURS SHOP」が２階にあります。１階のショップは動物関連の物が多く、書籍よりもグッズの方が目に付きます。Ｔシャツやトレーナーなどの衣料品、ポスターなど動物の絵柄の付いた商品が人気のようです。動物は、版権などの諸問題が少ないため、商品化しやすいという利点から、オリジナルの商品が多く作られていると思われます。

子供への人気は絶大の恐竜グッズは、２階のショップにすべて集められています。玩具・衣料品・アクセサリーなど、恐竜に関する物ならあらゆるジャンルを網羅しているようです。書籍は子供向けの絵本から大人向けの専門書まで、研究書よりは、図解のものを中心に揃えられているようです。

『アメリカ自然史博物館』

小規模なショップが数箇所に配置されています。各々のショップは、恐竜、民族品など取り扱う物が分かれており、関連の展示の近くにあります。民族品はレプリカやアクセサリーなど土産的な色合いも感じられます。玩具などは比較的少なく、オリジナルの衣料品・アクセサリーなど大人が対象の商品が目に付きます。宝石をあしらったアクセサリーなどはかなり高価な物もあり、衝動的な購買よりは、商品自体の価値での販売を意図しているようです。

『メトロポリタン美術館』

書籍の充実度はかなりのものです。現代美術より歴史的美術を扱った書籍が多いのは、モダン・アート美術館などを意識してのことと思われます。美術品の複製物、ポスターなどはもちろん扱っていますが、複製とは別にその題材を生かしてのオリジナル商品が主流のようです。スカーフ・ネクタイの衣料品、アクセサリー、カップ等の雑貨など、優れたデザインのオリジナルグッズを送り出しているようです。対象は、美術館という性質上大人ということで、金額的に高めのようです。通信販売も行っているということで、かなりの売り上げがあるそうです。

『カナダ自然博物館』

カナダの博物館のミュージアム・ショップは、北米に比べると小さめのようです。とはいえ、一軒の店並の規模ではありました。

この館は子供の参加・体験型の展示に重きを置いているので、ショップの中も子供向けになっていました。書籍は比較的少なめで、絵本型の児童書が中心です。カナダでは、英語と仏語の二か国語が併用となっているため、書籍は同じ内容でも二言語で用意されていました。

グッズはかなり遊び的要素の強い玩具が中心で、楽しさを大切にする館の性質を色濃く反映していました。説明書を必要とする複雑な物が少ないのは、二言語を用意しなければならないという事もあるのでしょう。

『オンタリオ科学センター』

博物館の広大な敷地に対して、ショップの割合は小さいようです。書籍よりはグッズが中心ですが、一般雑貨よりは科学的玩具といったジャンル

的に分類しにくいものが多いようでした。展示でも行っている心理学的要素のもの、たとえばバイオリズムや環境音楽など、かなり特殊と思える物も扱っており、日本では避ける傾向の分野も積極的に取り入れる体制がうかがえます。

『王立オンタリオ博物館』

古代エジプト文化の展示が始まるという事もあり、レプリカが多く扱われていました。それに限らず、古美術品のレプリカが目立ち、重厚な雰囲気のあるショップでした。

『デンバー自然史博物館』

ショップの隣はカフェテリアで入り口には彫刻などが飾られているなど、博物館というよりはアーケードのような雰囲気で何気なくのぞいて行くといった感じでした。

書籍は奥の方にまとめられているため、グッズ関係がまず目に付きます。玩具・雑貨が中心ですが、オリジナルの物は少なめであるようです。

この館は、恐竜中心の自然史系と参加性重視の科学系展示の二つの流れが強いのですが、ショップは、自然史系が主でした。恐竜に人気があるだけでなく、科学系のものは、商品化しにくいためだと思われます。

『エクスプロラトリウム』

展示をそのまま延長したようなショップの中には、あふれんばかりに物が並べられていました。とにかく、子供の喜びそうな玩具中心で、少しでも科学的な要素がある物ならシールからパズル・組立物まで揃え、子供達がその場で実際に遊んでみることのできる環境をつくっていました。

書籍はオリジナルのガイドブックが注目されます。子供向けには遊べるタイプ、付き添いの大人向けの展示解説、さらに専門家向けの原理・研究を詳細に述べたものと、様々なレベルで用意されています。

『カリフォルニア科学アカデミー』

動物及び海の生物中心のグッズと書籍ですが、ショップ自体はあまり大きいものではなく、量は感じられませんでした。専門家よりは一般向けで、ファミリーを意識しているようです。この館は大きなジオラマのホールがありますが、素人では写真に収められず、その場面の絵葉書やポスターなどは購入されやすいようです。

以上、各館のショップ視察の感想を述べてきましたが、館の個性というものがかなり反映されていたように思います。規模が大きな場合に商品が充実しているのは当然ですが、何に重点を置くかによって充実度はかなり変わってくるようです。

例えば、自然史系など、扱う物そのものの魅力が大きな場合、それを生かしたグッズはオリジナルであるということに強い価値を持つようです。科学系の場合は、商品化が難しいこともあり、市場の商品の中から良品を見つけ出すということも重要になってくるようです。

全体的に、それなりのスペースを割き、商品の選択に気を配り、オリジナル商品を開発するなどショップ経営に本格的に力をいれている館は、多大な売り上げがあり、館自体の経営上かかせない収入源にもなっているそうです。

最近、百貨店などで、各国の有名博物館のオリジナル・グッズが人気を呼んでいるそうです。これには、なかなか手に入りにくいという希少価値と、専門館製ならではの良品であるなど、非常に商品的魅力のあるためでしょう。

ただ売れば良いといった心ない商品ではなく、博物館が生み出した優れた良品が、その価値を理解されるようになったのは喜ばしいことです。今後もオリジナル、流通品を問わず、良い物を生み出す力や良い物を見つけ出す目が博物館・ミュージアム・ショップに求められていくように思います。

→

デンバー自然史博物館の恐竜型クッキー

←

アメリカ自然史博物館のオリジナルポーチ

各館オリジナル制作のビデオテープ

博物館ティーチャーズセンターの意義と事業内容について

国立科学博物館　教育部長　大堀　哲

1．教師の博物館理解を図るために

欧米の博物館を訪れると、どこでも子供たちのみならず高齢者に至るまで、どの年齢層の人々もそれぞれに展示を心から楽しみながら見学し、各種の教育プログラムに喜々として参加している光景を見ることができる。それは、博物館そのものが面白いからだろうが、それとともにおそらく学校の教師や親等から影響を受け、博物館は楽しく学べるところだという考え方が子供の頃から培われているからではないかと思う。

このような状況を見るにつけ、青少年期とりわけ小学生の時から学習活動の中に博物館の利用が位置づけられ、生涯にわたって楽しく学習できる場として博物館に親しむ素地が培われることの重要さを痛感するのである。児童生徒にそのような素地を培う上で極めて重要な役割をするのが、教師の姿勢である。教師が博物館をどのように認識しているかが、児童生徒を博物館好きにするかどうかにつながると考えられるからである。教師自身が博物館の展示の見学や各種の教育活動に興味関心を持ち、博物館が楽しいところと感じるならば、そのような教師は積極的に児童生徒の博物館見学のプランを立てるだろうし、きっと彼等に学校では得がたい体験学習をさせるに違いない。

このような教師の博物館理解を図るための方策が、いま強く求められているのではないかと思う。そのような方策が必要なことは、当館教育部科学教育室が国内の科学系博物館を対象に実施した調査でも明らかである。また、教師自身も博物館にそうした手立てを強く期待していることが、教師対象の調査結果からうかがわれるのである。当館では、この10年ほどの間、学校の理科教育との関連に配慮した参加体験型の展示の開発や各種教育・研修事業を実施するとともに、教師とのきめ細かい事前打合せ、教材資料の作成等を通じて教師に対する博物館理解、学校教育との連携を図ってきており、その効果が着実にあらわれるようになっている。しかしながら、これをさらに充実していくためには、総合的体系的に推進する場とそのための人的・物的体制の整備が緊要であり、それがかねてから構想していたティーチャーズセンター(Teachers' Center)である。幸いにもこのティーチャーズセンターの設置が平成4年度の予算に計上されたので、5号館2階の旧映写室(約120㎡)を改装し、去る7月1日にオープニングセレモニーを行い、活動をスタートさせた。勿論、我が国の博物館としては初めてのことであり、その機能、事業内容、運営方法等については、軌道にのるまでしばらく戸惑いもあろうかと思うが、担当者が研究的に取り組みながら、よりよいセンターのあり方を探っていきたいと考えている。

次に、スタートしたばかりのセンターにおける事業内容をご紹介しよう。

2．教師の自己研修や標本資料製作の実習もできる

我々は、先にも述べたように、博物館活動に対する教師の理解を深めることが、児童生徒の博物館における学習効果を高めることにつながる場としてティーチャーズセンターを位置づけている。博物館において教師が児童生徒に対して効果的な教育活動を推進するのに必要な知識、方法を学ぶとともに、効果的な博物館の利用方法について相談したり、各種の標本資料・教材製作等について、職員の指導を受けるほか、教師の自主的な研究、研修のできる場がこのセンターである。このことについてもう少し具体的に述べてみよう。

(1)　博物館の効果的な利用方法についての相談の場

参加体験型の展示「たんけん館」を中心とする学校団体の見学に関する時間、人数、指導助言の方法、教材資料についての教師の相談に対応したり、展示見学の際に明確な目的意識を持たせるための学習課題をどのように作成し、児童生徒に与えたらよいかといった相談等にもできるだけ応ずるようにする。

(2)　博物館における教育活動についての教師の自主的な研修・研究の場

当館の展示と学校の理科教育(学習指導要領)との関連、展示見学の内容や学習方法、教育用貸出し標本の指導法、博物館活動に関することなど、

実習室

各種の標本資料、図書、研究文献、ビデオ等を自由に活用しながら、教師が児童生徒を博物館に引率してきた場合にどうすれば効果的な教育活動ができるかを自主的に研究、研修できるようにする。

(3)　標本等製作の実習指導の場

教師が学校の理科の授業の中でも活用できるように、例えば押し葉のラミネートづくり、モグラやネズミなどの小哺乳動物の標本製作や小化石のレプリカづくり等の実習指導を行う。さらに、そのような標本資料を活用した児童生徒に対する指導方法等についても助言する。なお、この実習指導は個人のほか、グループ研修の形態で行うことも考えている。ただし、材料の準備の都合があるため、実習指導希望者は事前に教育部科学教育室又は直接センターへ電話等で申込みをしていただくことにしている(教材費の実費が必要である)。

(4)　さまざまな情報交換、交流の場

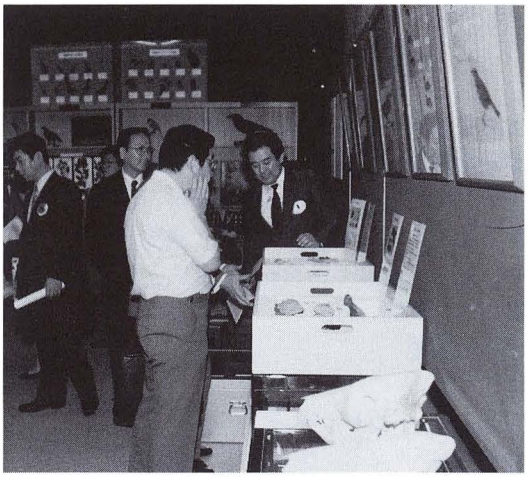
博物館に対する要望、博物館における教育活動のすすめ方、学校の効果的な博物館利用の実態等、博物館に関することについて館職員と教師との情報交換、教師相互の情報交流、コミュニケーションを通して、博物館と学校との相互理解、連携を図るようにする。そして、センターはこのような交換、交流を通して、広く教育全般の問題についても考えることのできる場になればと思っている。

以上のほか、ティーチャーズセンター主催による「生活科を学ぼう」(仮題)といった事業を計画し、小学校低学年の児童を対象にしたさまざまな体験学習プログラムの展開を通して、教師との研究を進めることができればと考えている。

3．主な施設設備

(1)　研修室

研修研究用頭骨標本(哺乳類各種、ヒト)、研修研究用観察ボックス(クモ、昆虫、モグラ、身近な森の四季など)、教育用貸出し標本セット(隕石、化石、微化石など)、研修研究用ビデオテープ(たんけん館、研修研究館、落ち葉とミミズ等)、鳥類剥製標本(カラス、キジ、オナガなど)、ビデオデッキ・モニター、フォトビデオカメラ、カラービデオプリンター、コンピューター、ワープロ、研修研究用文献(自然科学、学校教育関係、社会教育など)など


研修室

(2)　実習室

流し台付き実験台(3)、剥製標本製作セット、岩石薄片標本製作キット、岩石切断研磨盤、プレパラート製作器具セット、ラミネート製作キット、レプリカ標本製作キット、生物顕微鏡、双眼実体顕微鏡、電気低温定温機、オートクレープ、回路試験器、動植物組織プレパラート、飼育観察棚、軟X線透過装置など

4．指導体制

教師との相談に応じたり、標本製作実習指導等には教育部科学教育室教育普及官が当たるが、必要に応じて教育ボランティアの協力も得られるようにしたいと考えている。

5．センターの開室日及び開室時間

センターは国立科学博物館の開館日に開室し、原則として9：30～12：00、13：00～16：30まで開室する。

6．利用の対象

センターを利用することのできる対象は、学校教師が中心であるが、社会教育関係団体の指導者、博物館学芸員等である。

なお、当センターの円滑かつ効果的な運営を推進するため、学識経験者、学校教員、博物館関係者等10名程度で構成する企画協力委員会を設置して意見を聴することとしている。

北とぴあ科学館

〒114　東京都北区王子1－11－1
TEL 03(5390)1224　FAX 03(5390)1147

北とぴあ科学館は、区内小中学生及び区民の、科学的教養を高め文化水準の高揚を図ることを目的とし、また21世紀を担う青少年が、心豊かで創造性に富んだ社会人として立派に成長することを願い、新しい北区のシンボル「北とぴあ」の複合施設として開館した。

◆施設の概要

《北とぴあ》

敷地面積　6,981.94㎡
建築面積　4,534.02㎡
延床面積　35,128.45㎡
建築構造　高層棟　鉄骨鉄筋コンクリート造
　　地上18階　地下3階
　　低層棟　鉄骨鉄筋コンクリート造
　　地上7階　地下3階

《科学館》（低層棟5階～7階）

延床面積（展示館）　427.94㎡
（プラネタリウム館）　936.53㎡

◆展示館

当館の展示館は、科学の基本単位である「質量」をメインテーマに、「小さな世界」「私たちの世界」「大きな世界」「情報コーナー」の四つのコーナーで構成されている「参加体験型」の展示館である。また従来のパネルによる文字解説ではなく、端末機を操作し、知りたい情報を得る館内情報システム「コムネット」により解説を行っている。

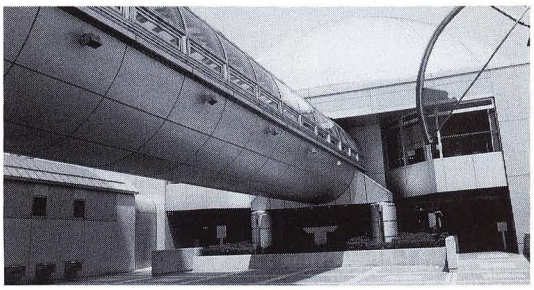
○〈小さな世界〉「冒険トンネル」

人間と科学の根源ともいえる「原子・分子」や「細胞」という極小の世界を映像と環境演出型展示により体感させ、「質量の旅」への導入部としている。その中の一つ、「ミクロコスモスの世界」では、分子の中にいるような体験ができる。

○〈私たちの世界〉「アタックランド」

現代科学を築き上げた科学史上の有名な現象や原理を、実験装置を使って体験するコーナーで、エネルギー変換、空気抵抗、ジャイロの世界、パスカルやベルヌーイの現像などが体験できる。

また、1日5回、約20分の「サイエンスタイム」では日常の身近な現象や最先端の科学をマジック形式や、クイズ形式にして紹介している。中でも他館に例を見ない「超伝導」の実験は、驚きの声



が上がるほどの好評を得ている。

○〈大きな世界〉「コズミックスペース」

日常の世界から大きな世界宇宙へ。宇宙船や宇宙空間をイメージした展示室内にて、星座や宇宙に関するQ＆Aコーナーや太陽系惑星での自分の体重を知ることができる「宇宙体重計」を備えている。

○〈情報コーナー〉「北とぴあサイエンスネット」

画像ソフトを編集し、区内の公共施設、学校、名所・旧跡など、北区に関する情報をレーザー銃の操作を通して提供する「北とぴあシューティング」コーナーと、365日のその日の科学に関するいろいろな出来事を端末機により呼び出す、「科学、今日は何の日」を展示している。

◆プラネタリウム

当館のプラネタリウムは、地球から見た天体の動きに加えて、他の惑星から見た天体の動きや過去から未来までの惑星の位置を、分単位の制度で表現できる最新鋭の設備です。また季節毎に交換する番組は、アストロビジョンを随所に取り入れ迫力ある画面作りをしている。

◆全天周映画（アストロビジョン）

アストロビジョン70による臨場感あふれるオリジナル映画やダイナミックな長編映画をプラネタリウム番組と併せて同時上映している。

◆教育普及活動

学校教育施設としても利用されており、区内小学校・中学校対象の学習投影や幼児対象の幼児投影を行っている。

◆その他の活動

プラネタリウム後屋上で行っている星の観望会や科学などの講演会の他、プラネタリウムホールをミニコンサートホールとして一般に貸出している。

秋田県立農業科学館

Akita Prefecutural Agricultural Science Museum

〒014　大曲市内小友字中沢171－4　　TEL：0187－68－2300　FAX：0187－68－2351

秋田県立農業科学館は、科学の目を通して農作物の栽培技術や自然環境の大切さを理解したり、農林業の過去、現在、未来について楽しく学びながら、明日の豊かな生活を築くための英知と感性を養う施設として開館した。

◉施設の概要

・敷地面積 89,899㎡・建物延床面積 4,699㎡
（第一・第二展示室472㎡、熱帯温室674㎡）
・建築構造 ＲＣ造一部木造・Ｓ造
地上一階地下一階

当館は、全長150ｍの細長い建築物で、周辺の自然環境との調和がとれ、館全体としての施設独自の主張を明確にしている。さらに、屋内展示、熱帯温室、曲屋等の施設や、樹木園、果樹園、花壇広場等の配置についてもその意図を一貫している。

◉展示の概要

第一展示室では、「土と人々のくらし」、「山と人々のくらし」を主要なテーマとして、機械化農業以前の農村生活の四季を模型展示している。

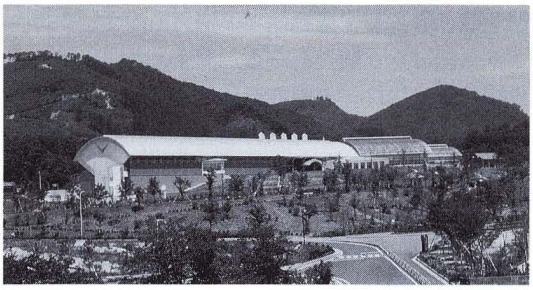
さらに、企画展示では、常設展示できなかった農業の分野を展示する。初回は「農業と水利」、「秋田県の畜産」を展示している。

第二展示室では、農業の成り立ちに必要な諸条件、とくに自然環境や、農業の生産技術のもつ科学的な仕組みについて理解を深め、さらには、未来の農村のあるべき姿に思いを描けるような展示をしている。

バイオシアターでは、生命の誕生、農耕の始まり、バイオテクノロジー利用による生産技術、秋田県農山村の四季を35ミリ立体映像で観賞できる。

熱帯温室では、熱帯、亜熱帯性の各種植物の花や果実を四季を通じて楽しむことができるほかに、水気耕栽培装置による野菜や、果樹の水平放任栽培も観賞できる。

果樹園、樹木園では、往時の農家生活と係わりの深かった樹種を、さらに花壇広場では、種々の草花、花木、薬草、工芸植物を春から秋まで楽しむことができる。



明治33年に建築された茅ぶきの曲屋を移築し、その中で、季節に合った農具の展示と、代表的な行事を行っている。また、炭焼小屋では、白炭の製炭実演と体験学習ができる。

◉教育普及活動

農業科学館が行う諸行事や教室では、人間生活を支える自然環境の大切さを学ぶとともに、昔から伝承されてきた遊具や民具づくりなどをとおして、先人が、自然から学んで得た生活の知恵と文化を尊び、継承する心を養成するとともに、これを新しい地域文化の創造に役立てることをねらいとして推進している。

◉利用案内

◦開館時間　9：30～16：30（4月～10月）
9：30～16：00（11月～3月）
◦休館日　月曜日（ただし、休日又は県の記念日（8月29日）にあたるときは、その翌日）
◦年末年始　12月28日～1月3日
◦入場料　一般　500円（400円）
高校・大学　400円（300円）
小・中学生　200円（100円）
（　）内は団体料金
◦無料公開日　こどもの日、敬老の日、文化の日、県の記念日（8月29日）

◉交通案内

ＪＲ奥羽本線大曲駅で下車。羽後交通バスターミナルから「小出沢行き」、「農業科学館行き」、「大曲スキー場行き(冬季のみ)」に乗車、農業科学館下車。大曲駅より6㎞、バスの所要時間20分。

全科協　北から南から

加盟館の特別展・企画展

○「生命の大進化」展

日本と中国の国交回復20周年を記念して、中国科学院の研究所・博物館等の協力を得て、先カンブリア紀のソウ類化石から三葉虫、アンモナイト、魚類、両生類など生物の進化の系統をたどる展示。

植物化石、恐竜、鳥類、哺乳類の化石を含めて中国各地から産出した約250点の実物化石が一堂に公開される。

開催会場	会期
仙台市科学館	7月25日～8月30日
福井県立博物館	9月12日～10月18日
浜松科学館	10月31日～12月6日
神戸市立青少年科学館	12月20日～1993年2月21日

○特別展「恐竜　－謎とロマン－」

岐阜県博物館では、同県白川村・荘川村で行った恐竜化石学術調査の成果、収集資料を中心に、国内外の恐竜化石、中生代の動植物化石を約130点展示する。会期は、平成4年7月14日㈫～9月6日㈰。期間中には講演会、化石クリーニングの実演、親子教室などの関連事業を計画している。

○恐竜のあるいた道

福島県立博物館では、平成4年度第2回企画展として、恐竜の足跡化石を中心として、恐竜の行動や生態に関する研究成果を紹介、展示する。

会期は、平成4年7月18日㈯～9月23日㈬。7月26日㈰には、コロラド大学マーチン・ロックレイ博士の記念講演会も予定されている。

○日本のチョウ

豊橋市立自然史博物館は、平成4年7月17日㈮から8月30日㈰まで、特別企画展「日本のチョウ」を開催する。日本産のチョウのほぼ全種233種について、約1570点の標本を展示するとともに、化石として発見された蝶類をはじめ、日本のチョウ相の形成史、チョウの進化、日本のチョウの多様性を紹介する。

○夏休み・サイエンススクェア

国立科学博物館では、平成4年8月4日㈫から8月23日㈰まで、上記の特別企画を行う。これは、子供たちが、みずからの手で作ったり、書いたり、試したり、さわって確かめたりして科学の世界にふれ、楽しみながら学習することを通して、科学への関心を高め理解を深めるものである。「科学おもちゃをつくろう」、「観察セットで自然たんけんをしよう」、「飛ぶ種のふしぎ」などのコーナーがあり、幼児から大人まで楽しめる。

○近世美術の華－サントリー美術館所蔵品から－

秋田県立博物館では、平成4年7月19日㈰から8月19日㈬まで、上記の特別展を開催する。近世の風俗画を代表する屏風作品、化粧道具や文房具などの漆工芸品、染織品として能装束、小袖などサントリー美術館所蔵の作品から国宝一件重要文化財二件を含む120点を展示し、華やかで装飾性の高い近世美術の一端を紹介する。

研究報告・日録等

○鳥取県立博物館研究報告　第29号　1992

○隠花植物目録（蘚類・苔類・地衣類）1992
岩永標本Ⅰ・鳥取県立博物館所蔵目録41

○郷土と博物館　第37巻第1号、第2号　1992
鳥取県立博物館

○我孫子市鳥の博物館調査報告　第1巻　1992

○五島プラネタリウム学芸報　第18集　1992

「J・ハーシェルが残した192枚のスケッチ」

南アフリカ公立図書館に保管されている貴重なスケッチ画を紹介。

「風伯（ふうはく）・雨師（うし）」

中国の文献にある風神・雨神が星座とどのような関係があるかを調査研究した報告。

「音響設備の改善」

ドームに設置した新スピーカーシステムの報告と、投影に使用する音楽とその著作権保護の問題点について、同館の事例を報告。

会報・定期刊行物

○鳥取県博物館協会会報　No.44、No.45　1992

○東京都博物館協議会会報　No.66　1992

○あびこ鳥だより　第1号　1992
我孫子市鳥の博物館

◇全科協ニュースでは、加盟館園等で刊行した図録やガイドブック、紀要、年報、研究報告、ポスター等の出版物を紹介します。販売品の場合は、申込み先、代金や送料などの必要事項もお知らせください。

連絡先：〒110　台東区上野公園7－20
国立科学博物館内　全科協　事務局